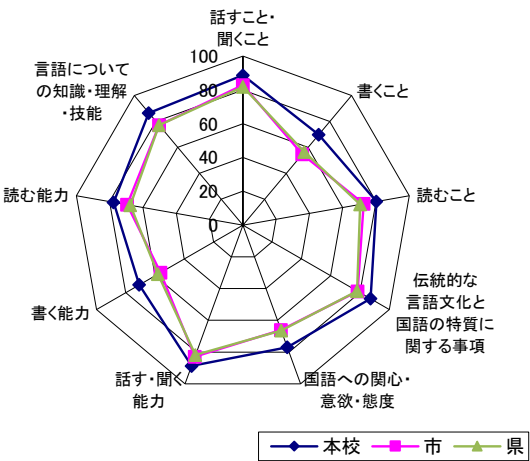


宇都宮市立今泉小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	88.7	82.9	81.8
	書くこと	69.9	54.8	56.5
	読むこと	80.3	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	87.2	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	76.9	66.0	66.4
	話す・聞く能力	88.7	82.9	81.8
	書く能力	70.8	56.3	57.9
	読む能力	77.6	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	86.5	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

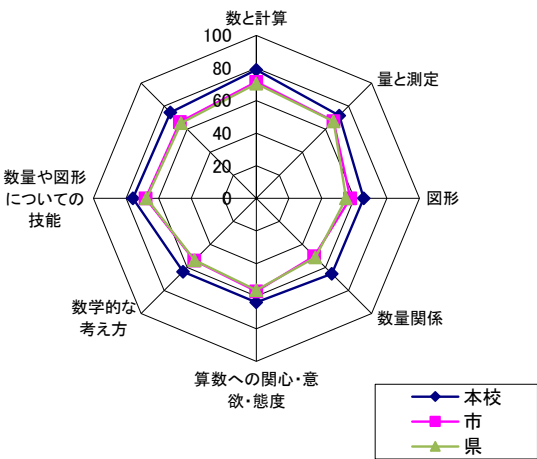
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を5.8ポイント、県の平均を6.9ポイント上回っている。 ○話し合いの内容を聞き取ることに、どの設問においても県や市の平均を上回り良好である。 ●司会の役割として、参加者の発言の共通点を言葉でまとめることができた児童の割合は、県や市の平均より高いが、正答率のうち準正答(完全な正答とは言えないが正答と同等に扱うもの)の割合が13.6%いて、今後の課題でもある。	・日頃の学習にペア活動やグループ活動を積極的に取り入れ、自分の意見を述べたり、相手の意見の大切なことや理由も正しく聞いたりすることを、繰り返し指導していく。
書くこと	平均正答率は、県と市の平均を10ポイント以上上回っている。 ○アンケート調査結果をもとに、考えが明確に伝わる文章を書く設問では、正答率が8割を超えており日頃の書く活動の成果がうかがえる。 ●資料を根拠として活用する設問では、県と市の平均正答率を10ポイント以上上回っているものの、内容の一部不十分な回答率が正答率を上回っており、適切な文章構成が課題と言える。	・今後も、全教育活動において考えたことを書いて記録する活動を取り入れ、書くことに慣れることができるようにする。 ・書いた文章を互いに読み合うなど、より伝わりやすく書くこととする意欲が高まる学習活動を意識的に取り入れることで、書くことの目的意識を育む。 ・根拠を明確にして自らの考えを表現する場を学習活動内に意識的に取り入れることで、伝わりやすい構成を意識できるようにする。
読むこと	平均正答率は、県の平均より9.8ポイント、市の平均より7.7ポイント高い。 ○物語の内容を読むことに、どの設問の正答率も県や市の平均より高い。特に登場人物の気持ちを読み取る設問においては、県や市の平均より10ポイント以上高かった。 ○説明文の内容を読むことに、どの設問の正答率も県や市の平均より高い。文章の内容を的確に読み取ることができた児童の割合は、県の平均より10ポイント以上高い。	・引き続き読書活動の充実と推進を図るとともに、物語文の学習では、人物や場面の変化を丁寧に読み取ったり、自分と対比して読んだりしながら、読み深める活動を取り入れる。 ・説明文の学習では、段落構成や筆者の考えを意識させながら、文章の内容を的確に読み取れるよう工夫する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、県の平均より9.1ポイント、市の平均より8.8ポイント高い。 ○漢字を読む設問の正答率は約92%、漢字を書く設問の正答率は約92%であり、十分に定着しているといえる。 ○動詞を詳しく説明する言葉を問う設問の正答率は県の平均より8ポイント、市を6ポイント上回った。 ○漢字辞典の使い方について問う設問では、正答率が県を8ポイント、市を7ポイント上回った。	・日本語の品詞において、今後においても日常的に指導していくとともに、詳しく説明することを意識して書いたり、話したりできるように、また学習を振り返る時間を設け定着を図っていく。 ・漢字辞典の使い方については、教室内に漢字辞典を置き、いつでも児童が調べられるようにする。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.9	71.5	70.4
	量と測定	71.8	67.0	66.9
	図形	65.8	57.6	55.0
	数量関係	65.4	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	63.8	57.0	56.3
	数学的な考え方	63.7	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	75.8	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	74.5	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

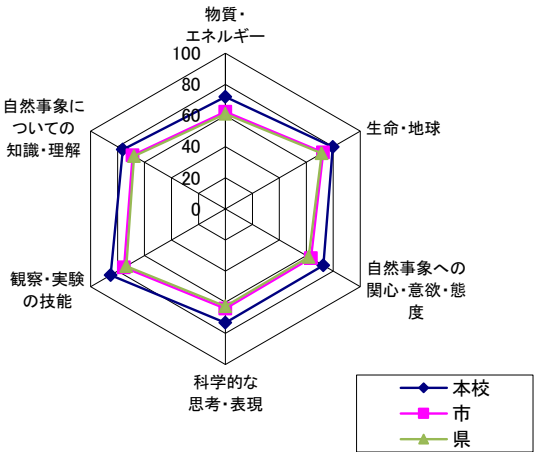
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を7.5ポイント、県の平均を8.5ポイント上回っている。 ○倍とわり算の文章問題を表した図の構造をとらえる設問では、県や市の平均より20ポイント以上高い。 ●億と兆・がい数の表し方の概数に対応する数の範囲の問題では、県や市の平均を約5ポイント下回り課題である。	・学習した内容で基本的な内容はほぼ身についているが、概数の数の範囲についての問題は、習熟に個人差が見られるので、今後も数直線を使用する学習を取り入れ、定着を図っていく。
量と測定	平均正答率は、市の平均を4.8ポイント、県の平均を4.9ポイント上回っている。 ○複合的な図形から面積を求める設問や、5等分した長方形の1つの辺の長さを求める設問において正答率が高く、県や市の平均より10ポイント以上高い。 ●算数の教科書の表紙など、身近にあるもののおよその面積を求める設問の正答率は、県や市の平均より約4ポイント低く課題である。	・問題の意味を具体例を示してとらえられるような学習場面を設けていく。例えば、様々な具体物について実際に大きさを調べたり、確かめたりする作業的・体験的な活動など、量の大きさについての感覚を豊かにするような学習を積極的に取り入れていく。
図形	平均正答率は、市の平均を8.2ポイント、県の平均を10.8ポイント上回っている。 ○いろいろな四角形の中から、2本の対角線が垂直である四角形を選ぶという設問や直方体のある辺に対して垂直な辺を答えるという設問の正答率では、県や市の平均より10ポイント以上高い。 ●地図から情報を読み取り、平行四辺形の特徴を使って2つの道のりが等しくなる理由を文で説明するという設問の正答率は県や市の平均を上回っているものの、23.3%と低い数値であった。	・平面図形や立体図形の学習では、観察したり、図形を構成している要素に着目したりして、図形について理解ができるようにする。具体的には、平行四辺形、ひし形、台形などの四角形を作図したり、直方体、立方体を見取り図や展開図で表したりするなど、作業から体験的に図形の性質を見いだしていくような学習活動を積極的に取り入れていく。また図形の性質を基に、論理的に考えを説明することができるよう指導する。
数量関係	平均正答率は、市の平均を15.2ポイント、県の平均を14.3ポイント上回っている。 ○どの設問も県や市の正答率より高い。特に、数量関係で、伴って変わる2つの数量の関係を式に表すという設問の正答率は県や市の平均より20ポイント以上高い。 ●折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明するという記述式の設問では、県や市の平均を約9ポイント高いものの、無解答率が19.4%であった。今後の課題である。	・理科や社会科等、算数の時間以外にも表やグラフを飲み取る学習を取り入れていく。また、その際、読み取るための観点を整理し、考えたことを発表したり、記述式で答えたりする場をつくり、多面的な考え方を知る機会を設定していく。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	72.0	62.4	61.1
	生命・地球	79.6	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	72.6	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	73.2	64.1	62.6
	観察・実験の技能	85.2	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	76.2	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均を9.6ポイント、県の平均を10.9ポイント上回っている。 ○水が氷になった時の体積変化について、説明する設問や水の温まり方をもとに、投げ込みヒーターの先が長い理由を推測する設問の正答率が、県や市の平均より20ポイント以上上回っている。 ●水の状態の変化に関する質問の正答率が、県や市の平均より10ポイント下回っている。若干名ではあるが、無解答の児童もいる。	・自主学習を通して、普段の生活の中で、様々な事象に対して、興味関心を持てるように今後も支援していく。また、抱いた疑問については自主的に追求していけるような支援をし、身の回りの事象について考える姿勢が身につくように指導する。
生命・地球	平均正答率は、市の平均を7.1ポイント、県の平均を8.2ポイント上回っている。 ○蒸発についての設問や気温を正しく測ることについての設問は、県や市の平均より10ポイント以上上回っている。 ●ヘチマの身の中に種ができるかどうかの設問や半月の動き方を理解する設問は、県や市の平均よりやや低い。	・自然の事物、現象の変化や働きについて、興味・関心をもって追究できるよう、体験的な活動を取り入れる。具体的には、植物を育て、観察することを通して、植物の発芽、成長及び結実とその条件についての考えをもつことができるようにしたり、月や星の観察を通して、動きと時間の経過とを関係付けながら、月や星の特徴や動きについての見方や考え方をもつことができるようにしていく。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家では予習している」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」と肯定的回答をした児童の割合はそれぞれ64.1%、74.7%、72.8%と市や県の肯定的回答割合を上回っている。また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」への肯定的回答割合は80.6%である。これらの結果から、児童は「予習⇒授業⇒テスト⇒復習」の学習のサイクルを意識して家庭学習に取り組んでいることが分かる。

○「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」について、肯定的に回答した児童の割合は78.6%で、県や市の平均を20ポイント以上高かった。今後も、児童が自らの学習をふり返る時間を確保し、学習内容の獲得、深化、統合を図り、児童の確かな力を育てていく。

○授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」と回答した割合は17.5%であり、市の平均と比べ12.9%と大幅に下回っていることから、本校では文章を書くことに対して苦手意識をもつ児童が少ないことが分かる。これは、普段からノートに自分の考えをまとめたり発表したりする機会を設けている成果が表れていると考えられる。今後も、自分の思いを表現する活動を多く取り入れていく。

○自然や宇宙など、科学の内容をあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだの設問は、市を15.3ポイント、県を16.5ポイント上回っている。今後もこの数値を維持するために、自然科学系の授業の工夫、改善を行う。

●「学校の宿題の量はちょうどよいと思う」と回答した児童の割合は69.9%で市の平均を6.3ポイント下回っている。また、宿題の量が多いと感じている児童もいる。児童がやりがいをもって、主体的に宿題に取り組めるよう、内容や量の考える必要があると言える。

●「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の問いに対して否定的回答をした児童は、市・県の平均と比べて上回った。小集団で学習する機会を増やし、互いに学び合うことの楽しさを味わわせるとともに、発言の機会を増やす授業展開の工夫に努めていく。

●「自分は勉強がよくできる方だと思う。」と肯定的に回答した児童の割合は54.3%で、市や県の平均と比べて低い。学習状況調査の結果ほとんどの項目で平均を上回っているという児童の実態と比べ、ずれがあることがうかがえる。今後は、様々な場面で個を認め称賛することで、できた実感を持たせ、自信を付けさせていく。